

開催地名	大阪府泉佐野市
開催日時	令和7年9月9日(火) 13:10 ~ 14:50
開催場所	大阪府泉佐野市立第二小学校体育館
語り部	吉田 亮一(宮城県仙台市)
参加者	泉佐野市立第二小学校 児童 約300人
開催経緯	本校において、防災についての学習を各学年にて実施をしている。被災地からの実体験を交えた講話を聞く機会を設けることにより、自分の命を守ること、社会と地域の実態を知ること、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方を学ぶこと、そして、それを実践に移すこと等、児童・教職員のさらなる防災意識の向上につなげていきたい。
内容	<p>(1) 防災の大切さを知ってもらいたい</p> <p>「東日本大震災 2011年3月11日金曜日 14時46分 震度6強」</p> <p>自然災害には竜巻、噴火、津波、地震、大雨線状降水帯、豪雪がある。なぜ自然災害が起こるのか。何かしらの自然災害でも一つ共通点が挙げられる。それは「地球」は生きているという事である。生きているから色々なことが発生し、そういった災害と私たちは共に生きていかなければならない。そんな災害が起こる中、なぜ人々は生き延びてこられたのか、何に備えなければいけないのか、災害について考えて行動する力が重要である。</p> <p>(2) 災害への備え</p> <p>例えば、スーパーで買った総菜用の容器等はサランラップと一緒に保管しておく、断水した際にでもサランラップを敷いて利用すれば水を使用しお皿を洗う必要が無くなるのである。部屋の整理整頓はどうなのか？部屋にいる時に地震が起こった際、そして停電が起こった時、部屋中に散乱しているものがあると怪我をする可能性がある。また机の下も整理整頓をして隠れるためのスペース確保が必要である。椅子がキャスター付きの場合、使わない時はキャスターを固定するなど備えることは大切なことである。</p> <p>自分たちが寝ている部屋で危険が無いのか、家の人と相談をすること。そして危険な目に遭わないために工夫をすること。他には、通学中に地震の被害にあった際、ランドセルのカバーを使ってしゃがんで、授業中に地震が起こった場合は、机の下にもぐり、机の脚を対角線上にしっかり持つこと(テナガザルポーズ)が重要である。そうすれば、机は絶対動かずに安定する。他には寝ている時に地震が起こった際は、カエルの姿勢(膝をひらいて)で丸くなることで、揺れから安定する。カエルの姿勢になることで隙間を作って逃げやすくなるのである。</p> <p>非常用持ち出し袋以外に防災用品6点セットが必要である。ベッドの枕元に常備しておくことが大切である。①靴下②厚底スニーカー③防犯ブザー④イヤフォン付き</p>

	<p>携帯ラジオ⑤ヘッドライト⑥フード付き雨具のすべてをナップサックに入れておき、地震が発生したらそれを身に付けて避難する。家の中の危険なものから身を守れることになる。また、家族でどこに避難するか事前に話し合っておくことが非常に大切である。地域・地区によって避難場所が違うことがあるので事前にハザードマップ等を利用し確認しておく。災害によって避難場所が異なる場合もあるので「知ること」が大切である。</p> <p>(3) 東日本大震災時の避難所の様子とそこから伝えたいこと</p> <p>震災を経験して、ゴミの分別や集積所作りは大切であると考え。他にも自衛隊が運んでくれる救援物資も、ただ運び入れるのではなく、種類別に数えやすいように置くなど、細かいことでも思いやりが大切である。</p> <p>震災の起こった17日間の避難所での生活を、当時の高校生・中学生が毎日詳しく記録を残してくれていた。記録を残した避難所は他にはない。避難所に電力会社・水道業者・市役所や学校からはがきで来るお知らせを、目につきやすい場所に掲示してくれたり、他には、炊き出し・配膳は中学生が担当して、小学生が必要な物資が何か紙に書いて募集をしたりもしていた。</p> <p>学校・避難所の掃除をする際、感染予防のためマスクを着用したり、大学生・高校生たちがプールの水が入ったポリタンクをリヤカーで運んで、トイレの排水で困っている住民に水を届けたりもしていた。プールの水をポリタンクに入れる担当は小学生と、分担をして連携プレーで行われた。</p> <p>備蓄については、飲料水・最低1週間分、食料・最低1週間分が必要になる。</p> <p>(4) みんなに伝えたいこと</p> <p>「いつも皆が助け合い、協力をして 命の大切さと人を思いやる気持ちで 仲良く暮らし災害に勝ちましょう」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	講演では「防災への日常的な備え」「日本各地域の災害における体験談」「地域の大人も子どもも自分自身が出来た役割」等のお話を聞くことができた。今後は「日頃

	<p>の防災意識の向上をめざした学習の実施」「避難のポイントを共有した上での避難訓練の実施」「家庭への啓発・発信」に活かしていきたい。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------